

# とつきび

2020/12

No.93

発行／最上ふれあい学園

編集／最上ふれあい学園広報委員会

〒999-6105 山形県最上郡最上町大字富沢4467

TEL 0233-45-2236 ・ FAX 0233-45-2011

HPアドレス：<http://www.vega.ne.jp/~mogamifg/>

Eメールアドレス：[mogamifg@vega.ne.jp](mailto:mogamifg@vega.ne.jp)



P 2 園長・看護課長より～コロナ対策について

P 3 フォトコーナー／職員紹介

P 4～5 収穫祭

P 6 稲刈り・ふるさと宅配便・施設整備事業について  
ボランティア・寄贈／編集後記 他

目次

# フォトコーナー

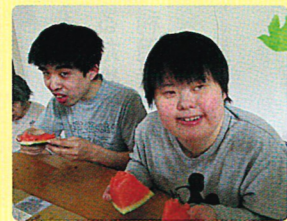
## 夏祭り



えいっ!!



## セタバイキング



えへ、おいしいよ



おいしいよ

## デイ旅行の代替行事

### ①東棟



豪華なお刺身!



### ②訓練棟



### 敬老会

### ③西棟



山形牛でバーベキュー



### 5名のご長寿の皆様

おめでとうございます!



おめでとう



いただきます

## 新型コロナウイルス禍に思う事

はじめに

園長 松井 平喜

令和2年も早いもので残り僅かとなりました。今年は新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れた一年だったように感じています。

学園の事業は全てコロナ対策が優先され行事の計画変更や自粛が余儀なくされました。また本意ながら地域のボランティアや学生の実習の受け入れもお断りする事態となり申し訳なく思っております。

施設では、利用者様の人命と健康が第一なので対策は重要な事です。事業の縮小や自粛により、職員の業務意欲仕事の達成感や充実感、更には問題意識も低下しないか懸念している今日この頃です。私としてはそうならないように全力を尽くす考えであります。

### 組織における安心感

新型コロナウイルス感染症の発生から約1年。コロナ対応BCPの策定を始め、法人や施設で組織的対策を整備した事で、発生初期のような恐怖感や緊迫感は薄れましたが、感染対策は常に状況が変化しており種々の判断に迷う事もしばしばあります。面会体制、行事開催、帰省、職員・家族の健康など、挙げればきりがありません。

通認識の下で種々の対応を図っている状況であります。今年度は、コロナの関係で協議会の活動は全く実施できておりませんが、電話での情報交流は以前より活発となり大変心強く思っております。

### ICT化の普及と人間関係の希薄化

リモートワークにより在宅でも仕事が出来た社会になりつつあるのが驚きです。最近、私たちの職場でもWeb会議や研修などICTを活用した案内が多くなっています。今後更にデジタルをベースにした環境整備が加速し「パソコンが苦手だから」など言っではいけない時代となりそうなので不安になります。

一方では、私たちの生活も様変わりしました。ソーシャルディスタンスやマスクの着用は必須のマナーとなり、その他にも、旅行、会食、イベント等の参加も自粛や我慢が続いている現状かと思えます。種々の行動には、福祉施設に携わる職員の自覚も問われ、一層コミュニケーションが希薄になってしまっている事を強く感じます。

### 今後必要に思う事

新型コロナウイルス感染症のワクチンや特効薬が開発され、安心した生活と仕事が出来るとはなりません。職員にとつて、その重圧は大きく不安やストレスも測り知れません。安心してストレスなく働く事

が出来た環境や条件整備等、メンタル面への対策が必要と感じています。

施設では、現在も、この先も「新たな生活様式」に当ってはめた、日常業務や行事の開催が余儀なくされます。特に地域との交流行事においては、施設にとって重要な事業であります。今後どのようなスタンスで実施すれば良いのか、各施設で考え方や対応が違う事の無いようにしなければならぬと感じております。

### おわりに

保護者の皆様には、新型コロナウイルス対策につきましては大変なご理解とご協力を賜り、あらためて感謝を申し上げます。開設以来30年このような事態は初めてでございましておられるかと存じます。

利用者様とは、遠く離れている分、心配に思う気持ちもなおさらかと思っております。学園では、ご家族の立場に立って、利用者様が元気に生活する写真や学園の出来事、自然環境の移り変わり等、出来る限りの情報をお伝えし、少しでも不安が軽減できればと思っております。

一日も早く、ご家族の皆様が、最上ふれあい学園にご来園できる日が来ます事を利用者さん職員共々心待ちにしております。(2020.10.30記)

## 県による新型コロナウイルス感染症に備えた説明会の主な内容

- ①新型コロナウイルスが感染させやすい時期は発症前後とされています。症状が出る2日前から症状が出た後7～10日くらい、また発症から間もない時期の感染が高い事が他の感染症と違います。風邪を引いた場合や体調不良時には自宅でお休みすることが大切です。
- ②発熱時の受診の仕方が変わりました。「保健所を通すやり方」から、「地元のかかりつけ医で診察を受け、医師の判断に応じて検査をするやり方」に変更になっております。
- ③いつもの冬であればインフルエンザも流行します。できるだけ多くの方がインフルエンザワクチンを摂取しましょう。インフルエンザにかかる人を減らす事が大切です。そして一人一人が新しい生活様式を守り実践しましょう。
  - ・密閉・密集・密接の「3密」を避ける。換気の工夫。
  - ・人と話す時は「マスク」をして、手洗い・アルコール消毒を心がける。

看護課長

笠原 和歌子

かさばら わかこ

意識した行動が感染予防につながります!

# 【二日目】



# 【初日】

# 収穫祭!!

大自然の恵みに感謝！

～家族へ笑顔をお届け 収穫祭～



## 第31回 収穫祭

10月17日、18日の両日、清々しい秋晴れの気候の中、31回目となる収穫祭を迎えることができました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、来園者は参加せずに、学園の利用者様のみの参加となりました。例年と違い、今年度は3密を避けるために様々な行事内企画が中止又は規模縮小せざるを得ない状況になりました。それでも、今も続くコロナ禍で様々な面で不便や我慢を強いられてきた利用者様を楽しませるために、感染拡大を防止する対策を徹底しつつ、利用者様を楽しませる企画を、収穫祭の実行委員会の全員で考えました。

今年度は「大自然の恵みに感謝 家族へ笑顔届け収穫祭」のテーマの元、1日目は神事、2日目に模擬店を開催しました。今年の模擬店は会場を本館の食堂に移し、秋らしい装飾で会場を彩り、今川焼き・ポテト・綿あめ・焼きそば・ジュースなどの飲食物を揃えて、小規模ながらも精一杯利用者様を満足させられるように準備しました。利用者様を棟ごとに、そして班ごとに分けて誘導し、3密を避けられるよう配慮いたしました。例年とは違う収穫祭となりましたが、利用者様には好評をいただくことができました。

今年度はコロナ禍の影響があったにも関わらず、無事に収穫祭を終えることができました。皆様のご理解ご協力をいただけることに感謝の意を述べさせていただきます。

来年こそは、皆様と変わりにくお会いできることを切に願います。



神事・玉串奉奠です



御神酒をいただきました

昼食は天然の落ち鮎と三色海鮮丼





9月16日(火)にふれあい学園の稲刈りを行いました。

例年通りであれば民生委員のボランティアの皆様と共に稲刈りを行なっていました。今年にはコロナ禍により、学園の利用者の皆様と職員で稲刈りを行ないました。当日は好天にも恵まれ、爽やかな秋晴れの中、気持ち良く汗を流しながら稲刈りを行う事が出来ました。無事に午前中のうちには殆どどの作業が終了し、くい掛けでの乾燥に移行しています。当日収穫したもち米は学園の行事の際に利用しながら秋の味覚を楽しんでいきたいと思えます。又、来年こそはいつも通りの日常が戻る事を祈るばかりです。



今年も保護者の皆様にお届けできる秋の味覚をお届けするべくふるさと宅配便の時期となりました。学園で実った秋の味覚を皆様にお届けできるように利用者の皆様と職員とが協力して作業を行いました。今年にはコロナ禍の影響もあり、作業が思うように行なう事が出来ない状態でもありましたが、何とかふるさと宅配便が出来るようにと努力を重ねてまいりました。コロナの影響で何かとストレスのたまる現在ですが、最上の秋を堪能して少しでもストレスの解消をしていただけたら幸いです。



新職員の紹介

奥山 万依架 (おくやま まいか)

●趣味・特技

趣味/音楽鑑賞、歌うこと  
特技/バスケ、ダンス



●自己PR...8月よりお世話になっております。利用者様とコミュニケーションをとりながら仕事に慣れて、1日でも早く利用者様のお役に立てるように頑張りたいです。よろしくお祈りします。

今年度の施設整備事業として、本館東棟男子トイレ及び洗面所の改修工事を実施し10月末に完成いたしました。トイレは、定期的に改修を実施し衛生保持に努めておりますが、この度は洗面所も含む全面改修いたしました。

洗面所には新たな洗面台の設置の他、トイレ内の一面に汚物処理室を設けシャワーカーナーや汚物除去機も新しく整備し利便性を高めました。今後共、利用者さんの快適な生活環境の維持・衛生管理に努めて参ります。

更に現在、本館管理棟のリニューアル工事を実施しております。事務室、職員室、会議室のレイアウトも変わります。詳しくは次号でご紹介させていただきます。



皆様からのたくさんのご厚意、いつもありがとうございます!

【寄贈】

- 9月29日/岸理事長様【山ブドウ20kg】
- 9月30日/中村農園様【リンゴ2パレット】
- 10月6日/マルイチ 伊藤百合子様【鮎300匹】

編集後記

新型コロナウイルスの猛威は、発生から程なく1年が経過しようとしていますが一向に収まる気配がありません。今まで「当たり前」に出来ていたことがこのコロナ禍で在り方を変えなければいけなくなっております。

では「当たり前」とはどのようなことを言うのでしょうか。

「当たり前」を紐解くと、「誰がどう考えてもそうあるべきだ」と思う事、当然な事、「普通」と変わっていない事、ありふれている事」という意味をもっています。日常にありふれていたものがある日突然奪われる、それも世界中の人々がいつべんに。誰も想像し得なかったことが現実になり、ふと今ある日常の大切さを痛切に感じます。

「ふだんのくらしを」に「あわせ」という「ふくし」の理念だけ変える事無く、これからは利用者様への心温かな支援を職員一同実践して参ります。

(記事 岡野達朗)